

第1分科会「2011.3.11から地域医療のあり方を考える」

運営委員（敬称略） 松本 隆浩（京都医労連）
森 茂（中通病院労組）
鈴木 哲夫（岩手県医労連）

助言者（敬称略） 長友 薫輝（三重短期大学 生活科学科 准教授）

未曾有の被害をもたらした3.11大震災から2年が経過しました。昨年の分科会では、復旧・復興が遅々としてすすんでいない実態が明らかになるとともに、被災地で歯を食いしばりながら頑張る再建に立ち上がっている様子も報告され、復興支援を進める中で何をどう支援していけばいいのかについても議論を深めました。また、格差と貧困の拡がりの中で、医療崩壊の実態や課題をふまえ、地域医療・福祉の求められていることや、有り様について経験を持ち寄り議論しました。社会保障の変質・解体を目的とした「社会保障・税一体改革」、社会保障制度関連法が強行され、消費税増税に向けて動き出しましたが、断じて許すことはできません。増税反対の世論は大きくなっており、社会保障の後退を許さない運動と相まってその攻防が激化する中での研究集会となります。キーワードのひとつは3.11東日本大震災からの復興です。復旧・復興を大企業の儲けの場として位置づけ、被災者置き去りで進められているばかりか、復興のための予算が産業空洞化対策などの口実で大企業支援に回され、防災の名目で公共投資のバラマキが行われています。憲法の理念に立ち戻って地域医療や福祉がどうあるべきか、そこに働く私たち医療労働者の果たす役割が鋭く問われています。被災地における地域医療再生のあり方を考えることがそのことにつながります。また、各地域で起こっている地域医療・福祉をよくする運動の実践や教訓から、運動の確信へとつなげていくことが重要です。「聞いてよかった。勉強になった」から、それをどう自らの実践につなげていくのか、一歩踏み出せるような議論ができる分科会にしようと考えています。

以上のことから

- ① 東日本大震災からの復興の状況、地域医療再建の現状や課題。
- ② 「公立病院ガイドライン」や民間病院の再編合理化の動き、地域の医療を守り充実させる取り組み。
- ③ 格差と貧困の中、職場や地域で起きている医療や国保、介護の諸問題。などのレポートを募集します。

（参加者のみなさまへ）

激動する情勢の中、東日本大震災からの復興を考えると、医療や生活をどのような方向に再建していくのか、その選択を私たちに問いかけています。被災地における地域医療再生の動きをとおして、また、現場でおこっている問題や実践を持ち寄って、現状や課題をみえるように発信していこうではありませんか。